



2007年6月18日

各 位

上場会社名 株式会社ゼンテック・テクノロジー・ジャパン
代表者名 代表取締役社長 大谷 省三
(コード 4296、大証ニッポ ンニューマーケット-ヘラクレス市場、スタンダード)
問合せ先 責任者役職名 財務・IR 担当 取締役
氏 名 吉村 一男
(TEL 03-5298-8100)

ゼンテック、Broadcast Asia 2007 で多彩なソリューション提案

株式会社ゼンテック・テクノロジー・ジャパン(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：大谷省三)およびシンガポールの子会社であるゼンテック・テクノロジー・シンガポール・プライベート・リミテッド(社長：吉村一男、以下、「ゼンテック」)は、2007年6月19日から22日まで Singapore Expo で開催される Broadcast Asia 2007 (ブース番号：8G4-01 & 8F4-04) においてハイディフィニッション TV (HDTV)、IPTV、モバイル TV (ISDB-T ワンセグ、DVB-H) を中心とする最新のデジタル・ソリューションを紹介致します。

ゼンテックの DTV ソフトウェア (MediaStack) と DTV モジュールは、デジタル放送の各規格(OCAP、ATSC、ISDB-T、ワンセグ、DMB-T、DVB-H、DVB-MHP や BDI) 等の国際標準規格に対応するように開発されてきました。今回出展する多彩なソリューションは、国際標準規格に対応し既に市場で実証済みであることから、デジタル TV 及び STB 等のデジタル機器メーカー、放送事業者、ネットワーク事業者やコンテンツ制作者にとって、市場への早期参入を可能にする End to End ソリューションであると考えております。

ゼンテックの MediaStack は、DTV または STB(セット・トップ・ボックス)に搭載され、デジタル家電のアプリケーションをサポートするミドルウェアとして使用します。ゼンテックが提供する DVB-MHP では、マクロメディア (アドビ) の Flash プレーヤを実装することにより、PC や携帯電話上で実行していた Flash アプリケーションが DVB-MHP 上でも実行可能となりました。このようにゼンテックのソリューションは、放送・ネットワーク事業者やコンテンツ開発者がより魅力的なサービスを提供することを可能とし、付加価値の増大に資するものと考えております。

Broadcast Asia 2007 ではシンガポール・パビリオンの展示場(ブース番号：8G4-01 & 8F4-04) において次のような製品を展示いたします。



ゼンテック IPTV ソリューション

ゼンテックは一般消費者、教育、企業、ホテルや病院などのホスピタリティ産業等、異なるマーケットに対応した End to End の IPTV ソリューションを提供します。

ゼンテックの VOD (ビデオ・オン・デマンド) ソリューションは RTSP(Real Time Streaming Protocol)、IGMP(Inter Group Management Protocol)、マルチキャスト、RTP(Real-time Transport Protocol) および RTSP のユニキャストをベースに構築しています。これらの IPTV ソリューションは WMV9、AVC/H.264、MPEG2、WMA、MP3、そして WAV のように様々なビデオ、オーディオ・フォーマットをサポートします。また、高画質の H.264 にプッシュ型 VOD をサポートする HD IPTV ソリューションを提供します。これらのソリューションはネットワーク PVR の採用により、比較的ネットワーク帯域の充分ではない市場でも対応が可能です。ゼンテックはさらに IPTV システムに搭載されるテレビ電話会議 (Face2Face)、ビデオ・メール、カラオケ・オン・デマンド、対戦型ゲームをオプションとして提供します。

ホテル・オン・デマンド・ソリューション

ゼンテックの IP ベースの VOD システムは、インルーム・エンターテイメント・システムを、ホテルサービス業界に向けて提案します。これらのシステムは、ハウスキーピング、ミニバー管理、個人メッセージ、VOD、音楽配信、インターネット・ブラウザなど様々な用途に相互適用させることができます。またこれらのシステムは宿泊客が精算情報にアクセスし、宿泊精算するインターフェースを持っており、また多様なセキュリティ機能を持ち、DRM (不正コピー、改ざんからコンテンツを保護する技術) も装備しています。コーデックは MPEG2 と H.264 をサポートしています。

コンテンツ・マネージメント・システム(CMS)

ゼンテックの CMS は最新鋭のマルチメディア情報表示システムで、それぞれの情報表示装置 (LCD パネルやプロジェクター等) に対して、コンテンツ表示の異なるスケジュール設定や制御を可能とします。このマルチメディアシステムは、文字情報はもちろんのこと、画像、WEB ページ、Flash コンテンツなど複合的にコンテンツを表示することや、HD デジタルビデオを TV やオーバ・ヘッド・プロジェクターで表示させることも可能です。ユーザー・フレンドリーなインターフェースを持ち、個別やグループ化によるスケジュールの設定、画面分割やコンテンツのカスタマイズ等、様々な機能を有しています。

各端末 (STB 及び表示装置) は一箇所の管理サーバーから LAN やインターネットを通して管理でき、また設置も容易なことから、ショッピング・センターやレストラン街、また大規模娯楽施設での案内にも適しています。さらに WEB サーバーやインターネット・ブラウザを経由して携帯電話から文字情報を送信し、各所に設置された表示装置に対してリアルタイムで表示することも可能です。



Grid Scanner (グリッドスキャナ)

グリッドスキャナは写真画像、イラストや文字等の GridOnput®製品上に印刷されたドットパターンを瞬時に読むスキャナです。これは目に見えないバーコードのようなもので、そのドットパターンをデジタル情報として瞬時に読み取り、対応する動画や WEB ページ等の様々な情報を呼び出すことにより、紙媒体の一覧性とマルチメディアの豊富な情報を繋ぐことが可能となります。理想的なアプリケーションとしては観光ガイド、通信販売のカタログ、新製品のカタログなどがあります。

IR Grid Scanner

赤外線グリッドスキャナは、紙媒体から読み込んだ情報をリモコン同様にテレビや STB に送信し、IPTV や CATV または DVD プレーヤーと連動したサービスを提供します。これにより紙媒体とマルチメディアの融合による利便性の向上が、テレビにもたらされることになり、VOD、カラオケ、TVショッピング等を通して放送・ネットワーク事業者やサービス事業者に新しいサービスの展開を可能にします。

ゼンテック HDTV ソリューション

ゼンテックは ATSC、DVB、ISDB を含む、SD(標準画質)、HD(高画質)DTV 標準に適したミドルウェアとモジュール・ソリューションを提供しています。

DVB-T HD ソリューション

ゼンテックは、多くの国々が HD 品質ビデオの放送として採用を始めている H.264 ビデオ、AAC オーディオ標準規格に適した DVB-T HD ソリューションを持ち、DVB-T 標準に適合した地上デジタル HDTV 受信 STB を提供しています。

デジタル TV ミドルウェアとモジュール製品

ゼンテックは ATSC、OCAP、DVB-T、DVB-MHP、DVB-H、ISDB、ワンセグなどの DTV やモバイル TV の様々標準規格に対応したミドルウェア・ソリューションを提供します。ゼンテックの DTV ミドルウェア・ソリューションは全ての標準規格をサポートしています。ゼンテックのミドルウェアは市場において実証済みであり、世界中の多くの国々で使われています。また、これらのミドルウェアを実装した受信モジュールを開発しており、DTV 関連製品の短期開発を可能にします。

ATSC：ゼンテックの ATSC ミドルウェアは既に数多くのチップ・セットに搭載され、市場に出荷されております。機能的でシンプルな GUI と優れた移植性を持つことから、短時間で異なるプラットフォームへのインテグレーションが可能です。また HDTV 対応のモジュール



(Katana) やデジタルとアナログ機能がワン・チップに集約したモジュール(Glaive)を提供しております。

ISDB-T：ゼンテックは、2006年の初夏にモジュール出荷を開始して1年足らずで、日本の地上デジタル対応モジュールのリーディング・プロバイダーとなりました。顧客の商品特性に合わせて、Kabuto、Kabuto Lite、Kodachi といったライン・アップを揃えており、またアナログ・ボードと併せてトータル・ソリューションを提供することも可能です。

MHP (Multimedia Home Platform) ソリューション

ゼンテックは双方向 DTV サービスの世界標準規格である MHP に対して、費用効率が良く、高画質の STB ソリューションを提供します。この STB は、アジア地域で最初の本格的な DVB-MHP 規格の商用化放送を始める台湾テレビが、既に採用を決定しています。またアドビ FlashLite2.1 の実行可能な MHP ソフトウェアを搭載していることから、PC や携帯電話で幅広く利用されているフラッシュ・アプリケーションを DTV のプラットフォームに導入することが可能となり、放送事業者はより付加価値の高いサービスを提供できることとなります。

iTV コンテンツ・クリエーション

ゼンテックの双方向 DTV コンテンツ・クリエーション・システムは、MHP などの業界標準に対応したコンテンツ制作と検証のシステムであり、既に数社の大手放送事業者やコンテンツ・プロバイダーに採用されています。とりわけドラッグ&ドロップでコンテンツ制作が可能なオーサリング・ツール (Mediamaster) は、プログラミングの経験がないデザイナー等も MHP アプリケーションが作れるため、コンテンツ制作の裾野拡大に貢献すると考えております。

モバイル TV ソリューション

日本の ISDB-T モバイル放送規格の「ワンセグ」と世界標準である「DVB-H」は、H.264 ビデオコーデック、オーディオコーデックの標準である AAC を使っています。ゼンテックは日本のワンセグ放送に対して、世界初の SDIO ワンセグ受信端末の商品化や切手大のワンセグ・モジュール開発等先進的な取組を展開しておりますが、DVB-H 規格への本格的な参入に際し、これら技術や商品の応用を含め、多面的な展開が可能になると考えております。

DVB-H ターンキー・ソリューション

ゼンテックはモバイル TV のシステムインテグレータとして、放送送出側システム (オーディオ・ビデオ・エンコーダ、放送管理サーバ、精算 (課金) システム、モジュレータ、トランスミッタ)、モバイル TV 受信機 (モバイル携帯電話、PDA、UMPC、ノート PC 向け SDIO カ



ード、USB 端末)及び関連ソフトウェア・ライセンスを含む End to End のソリューションを提供します。ゼンテックの複数のベンダーやサプライヤーからなる戦略パートナーシップは、End to End のモバイル TV 放送ソリューションとして、実証済みのシステムをアジア地域のモバイル放送事業者に提供することを可能とします。

DVB-H ソフトウェア・スタック

ゼンテックの DVB-H ソフトウェア・スタックは、DVB-H 規格のモバイル放送に対応した、移植性に優れたソフトウェア・プラットフォームです。DVB-H ソフトウェア・スタックはその優れた移植性から、比較的容易に多くのハードウェア・プラットフォーム、例えば UMPC(ウルトラモバイル PC)、ノート PC、PDA、携帯電話、カーナビゲーション・システム等に搭載することができます。

SD/SDIO ソリューション

ゼンテックは SDIO カード・ソリューションとして、802.11b、802.11b/g、RF-ID、Zigbee、GPS、ワンセグ DTV など様々なカードを開発しています。ゼンテックは、SD/SDIO ホスト・コントローラ・チップ「CG200」を提供します。CG200 は、ATA、PCI、CPU バス等の多彩なホストバスに対応し、さらに業界で唯一、2つの SD スロットをサポートします。CG200 は、開発・評価ボードも用意しております。また、SD/SDIO デバイス・コントローラ・チップとして、「CG100」を用意しております。

ゼンテック・テクノロジー・グループについて

ゼンテックは、デジタル家電事業、モバイル関連事業、ネットワーク関連事業と、これら事業の価値創造性を高める為に設けられた、戦略的投資事業の 4 事業を展開しています。最先端かつ高度な自社技術を保有しており、デジタル TV 標準規格ミドルウェアのライセンス提供、ハードウェア製品の販売、携帯・カーナビ分野のソフトウェア開発のほか、システムインテグレーション、カスタマイゼーション、QA(Quality Assurance : 品質保証)事業など、画期的な情報家電技術ソリューションなどを提供しております。また、ブロードバンド無線機器、およびセキュリティ・ネットワーク機器などの開発、販売、保守メンテナンスなども行い、各分野で優れた技術力を発揮し、戦略を展開しております。ゼンテックは開発期間を短縮させるモバイルデバイスエミュレーションツールのパイオニアであり、1997年に設立され、2001年にはヘラクレス株式(コード 4296)に上場しました。ゼンテックは日・米・シンガポールの拠点より世界に向け、ユビキタス社会の実現に貢献する事を使命としております。

その他の詳細については <http://www.zentek.co.jp/> をご覧ください。

※記載された社名および製品名は各社の登録商標もしくは商標です